

政治が
変われば!

総工費は
2兆1千億円以上
さらに増大も

ダンプカー
160万台の残土
処理は不明

京都市内に
大地下トンネル
地下水は?
街並みは?



北陸新幹線延伸より コロナ対策を

2023年着工がねらわれる北陸新幹線延伸計画は、自然や住環境の破壊、地下水も含め暮らしと生業に重大な影響を与えかねず、トンネル工事による膨大な残土の処理方針も決まっていないなど問題が山積しています。しかも、建設費だけで2兆1千億円。自治体・住民負担は一体どれほどになるのかははっきりしていません。一方でJR西日本は、コロナの影響で乗客が激減したことを理由に、在来線の大幅な減便を進めています。

北陸新幹線延伸計画は中止し、住民の足を守る在来線の充実、コロナ対策を最優先にすべきです。



日本共産党

京都府議会議員団議会報告

2021.9月 発行 / 日本共産党京都府議会議員団 TEL 075-414-5566
日本共産党京都府議会議員団は上記の見解を発表しました。

北山エリア 整備計画

住民の意見を聞いて、
抜本的な見直しを

北山エリア整備計画とは

- 府立植物園に商業ビルや野外ステージを建設し、植物園の機能や配置変更を可能に
- 1万人規模の「アリーナの」体育館の建設
- 老朽化した府立大学校舎整備を放置したまま民間主導の開発



府民の宝 植物園も、
もうけのために
利用するなんて
許せない！



なぜ
2千人の大学に、
1万人規模の
アリーナを
つくるの？



静かな住宅環境に
影響あるのに、
なぜ住民説明会も
開かないの？



1924年開業。長年、府民の憩いの場となってきた府立植物園

京都府は、住民団体の申し入れに対して説明会の開催を約束しましたが、いまだに開催されていません。しかも、アリーナだけで150億円ともいわれる開発費用の総額も明らかにされていません。

コロナ禍で、府民の暮らしや営業が深刻な事態に陥っている時に、住民への説明もなしに、どれだけの開発費がかかるかわからない巨大開発を進めることは許されません。